

製品名: MGMT ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab13869

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、ネズミ
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	22kDa

抗原情報

遺伝子名	MGMT
別名	MGMT; Methylated-DNA--protein-cysteine methyltransferase; 6-O-methylguanine-DNA methyltransferase; MGMT; O-6-methylguanine-DNA-alkyltransferase
遺伝子 ID	4255.0
SwissProt ID	P16455
免疫原	抗血清はヒト MGMT 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 1-50

背景

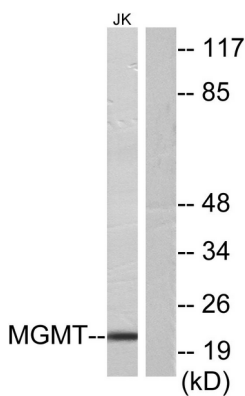
アルキル化剤は強力な発がん物質であり、細胞死、突然変異、そしてがんを引き起こす可能性があります。この遺伝子によってコー

ドされているタンパク質は DNA 修復タンパク質であり、アルキル化剤による突然変異誘発や毒性に対する細胞防御に関与しています。このタンパク質は、DNA 中の O(6)-アルキルグアニンなどのメチル化部位からメチル基を自身の分子へ転移する反応を触媒し、毒性病変を修復します。この遺伝子プロモーターのメチル化は、大腸がん、肺がん、リンパ腫、神経膠芽腫など、いくつかの種類のがんと関連していることが知られています。 [RefSeq 提供、2015 年 9 月],触媒活性: DNA (6-O-メチルグアニン含有) +タンパク質 L-システイン = DNA (6-O-メチルグアニン非含有) +タンパク質 S-メチル-L-システイン。補因子: 亜鉛イオン 1 個に結合する。機能: DNA 中の O6-メチルグアニン (O6-MeG) の生物学的作用に対する細胞防御に関与する。DNA 中のアルキル化グアニンを、O-6 位のアルキル基を酵素中のシステイン残基に化学量論的に転移させることで修復する。これは自殺反応であり、酵素は不可逆的に不活性化される。類似性: MGMT ファミリーに属する。 ,

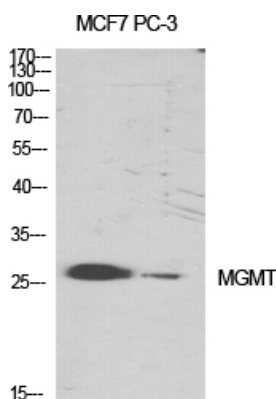
研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

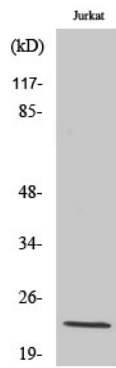
画像データ



MGMT 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 1000 に希釈した MGMT ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウェスタンブロット分析。



1: 1000 に希釈した MGMT ポリクローナル抗体を使用した Jurkat 細胞のウエスタンブロット分析。